広島大学大学院教育学研究科紀要　第一部　第61号　2012　35－40

オーストリアの親教育 Elternbildung に関する一考察

― シュタイアーマルク州の事例より ―

蘆　田　智　絵

（2012年10月２日受理）

Parental Education in Austria
― *Elternbildung* in Styria ―

Chie Ashida

Abstract: Parental support is important for both parents and children. In order to develop parental competences, the mere experience of parenthood is insufficient. Nowadays, to ensure a healthy family atmosphere and a successful upbringing of children, further measurements are necessary.

The purpose of this research is to investigate how parental education in Austria, especially in the case of Steiermark (Styria) is conducted. Elternbildung (Parental education) in Austria is, by definition, the educational support of parents by licensed organizations in order to enhance parental competences. Elternbildung targets primary the core family but also grandparents to better the cooperation and relationship inside the family. It supports the family in problematic situations in everyday life. Elternbildung is not instructive but accompanies the family in the educational process of the child. Its goal is to enhance already existing parental competences without interfering with the natural habit of the parents and always considers the personal background of the family.

It is a very effective tool to better the parent-child-relationship and works preemptive to domestic violence. Parents learn in small groups carried out by trained personal. It is important for any organization which carries out Elternbildung to be sensitive to all types of families, lifestyles and the cultural background of the participants. Target-group-specific thinking and working is required. Self-reliance of the participants towards their educational responsibility is to be cultivated in order for the parents to develop self-efficacy in parenthood. Elternbildung is focused on making own experience rather than giving lectures. It is dialogical, respectful and appreciative. Due to recent trends there are also special activities for fathers, in order to integrate them more into the upbringing of the children and the educational process. Elternbildung supports parents in discovering their own way of raising their children in a better way.

Key words: Austria, child rasing, Elternbildung, parental development, parental education

キーワード：親教育，子育て，親の発達

はじめに

子育てにストレスや困難さを感じる親が増加していることを受け，子育て支援の充実が一層求められている。現代の親は，親になるまでに，子どもを遊ばせたり世話をしたりした経験が少ないため，子どもや子育ての方法についてほとんど知らないまま，わが子を育てなくてはならない現状があることも指摘されてい

る。このような状況をうけ，子育て支援では，親の子育て負担軽減だけでなく，親の子育て能力の発達を促すことができるような支援が必要とされている[1)]。

オーストリアでも，親になる前に子育てについて学ぶ機会がないこと，親になっても祖父母と一緒に生活していないため相談できる人がいないことや，祖父母の世代と現代の子育てとが変化してきたことから，親として子どもを育てることを学ぶことが難しくなっている。オーストリアでは子育て支援の一つとして親教育Eltern Bildungが実施されている。本論文では，オーストリアではどのように親教育が行われているのかについて考察し，親の発達を促すためにどのような支援が必要かについて示唆を得ることを目的とする。

Ⅰ．オーストリアの親教育の枠組

１．親教育の定義

オーストリアにおける親教育は，成人教育の一つとして，経済・家庭・青年省の管轄で行われている。親教育の対象は母親，父親，祖父母，また家族として教育的役割を持つ人すべてである。

親教育は次のように定義されている。「親教育は，親がいろいろな状況で適当な行動ができるように，親としての教育的課題を知り，どうしたらよいか知り，子どものためによい教育的態度がとれるように支援する。親教育は，親としての知識，能力，態度，判断を拡大させていく学習過程の始まりである」[2)]。また，親教育は，親としての能力や教育力を強くすることによって，親と子どもの関係に問題が生じることを予防することをも意図されている[3)]。

親教育の定義では，親教育の重要原則として，次の４点が挙げられている。

・注意深く，尊重し，高く評価する接し方
・教示ではなく付き添い，支援すること
・暴力のない教育を明示すること
・子どもの権利への注目

また，親教育では多様な家族があることが大切にされている。親教育の定義のなかには，多様な家族形態があり，家族それぞれが多様な生活をしているという現実を受け止めること，多様な年齢の子どもを持つ家族すべてを対象にすること，それぞれの家族には個人的，文化的，社会的，言語的な違いがあるという前提を考慮すること，と明記されている[4)]。シングルマザーやシングルファザー，結婚していない両親など様々な親があることや，外国人も多いため多様な文化を持っていること，また，形態の違いだけでなく家族によってそれぞれ違いがあることを重視することが親教育では大切にされている。

２．親教育の内容

オーストリアの親教育の特徴は，親教育に関する専門的な指導者のもとグループで学ぶことにある。親が，親としての教育的課題に自分自身で取り組み，よりよい親子関係を築いていく過程を推し進めていくため，親教育では，専門的な指導者により現在の学術的知識に基づいた内容が提供され，それについて親はグループで学ぶ。それによって，親が自分自身の子育てについて省察できるように促し，また親同士で子育ての経験を交換する機会を提供する。親教育は，親同士の交流が行われる機会としても重要視されている。

また，親教育ではないものとして，セラピー，家族相談，教育相談，コーチング，規格化された親トレーニング，休暇や休養のために提供されるプログラムが挙げられている。親教育は，解決方法を提供するのではなく，親が既に持っているものを考慮し，それぞれの親のこれまでの子育て経験や，同様に親それぞれの生活状況を熟考するように促すことで，親の教育的行動能力を拡大することが目的とされている。

このように，親がそれぞれの生活のなかで，それぞれの子育てを自分自身で経験していくことができるように促すこと，親のもつ選択肢を広げ親が自分で選択することができるようにすることが親教育では目指されている。そのために，親が子どもの教育においてそれぞれの道を歩めるよう勇気づけること，親が完璧である必要はないと励ますことが必要であるとされている[5)]。また，親教育は，家族内の暴力を防ぐためにも重要なものとして位置づけられている。

オーストリアの親教育では，親が自分自身の教育スタイルを発展させていくことを目標とし，そのために，他の親とともにグループで学び，親としての経験を交流しあうことが大切にされている。また，そのグループでは，専門的な知識を持つ指導者が親の学びを支援するようになっている。

３．親教育で扱われる具体的テーマ

親教育を実施する機関は，次のすべてのテーマを扱うよう指定されており，親は子育てに関する幅広いテーマについて学ぶことができる[6)]。

１．子どもの発達
２．教育目的と教育スタイル
３．教育，コミュニケーション，パートナーとの関係
４．けんかとのつきあい
５．健康と性について

6．法律・経済に関する質問，上記のテーマ領域に関係する内容
7．幼稚園，学校，職業教育など
8．託児所について
9．家族の文化，家族と社会
10. 自由時間
11. 創造性と遊び
12. メディア
13. 共同教育者（祖父母，親戚，義理の父母など）

4．親教育における支援のあり方

親教育は，親が教育者としての課題を果たすよう支援し案内するものであるとされている。親教育は,「能力を積極的に扱い，多様な家族形態のなかで子どもと大人を伸ばし育つことができるよう力添えするような道を示す」[7] ことがもとめられている。そのために，親教育では，親への支援にあたって，次のようなことに注意するよう規定されている。

第１に，参加者の多様性を認めることである。親をひとまとめに同じ親としてみるのではなく，親は，子どもの教育責任をもつ多様な男性と女性であるということが指摘されている。

第２に，多様な形態を用い，親同士でともに学びあうプログラムを提供することである。

第３に，参加者の自発性を活発にし，親が子どもの教育責任をもつことを自覚するように促すことである。

第４に，親が自分で経験し，学ぶように支援することである。

第５に，親を尊重し，親とコミュニケーションをとり，親教育をすすめていくことである[8]。

これらのことから，オーストリアの親教育では，親をひとくくりにするのではなく多様な生活環境，多様な考えを持つ親がいることを尊重することが求められていることがわかる。また，親の自発性を尊重し，親が自らの教育責任を自覚するよう促すことも重視されていることも伺える。

5．親教育の周知方法

親教育を行う機関は，親教育を周知し参加を促すため広報活動を行うことが求められている。その周知方法は，インターネットや電話での問い合わせ窓口（Familien Telefon），ニュースレター（ZWEI UND MEHR-Newsletter），親教育割引券（Elternbildungs Gutscheine）などがある。特に，親教育割引券は2009年に始まったもので，オーストリアで有意義な試みとして注目されている。親は，申請をすれば誰でも親教育割引券をもらうことができる。この券は，５ユーロの割引券になっており，４枚セットでもらうことができる。この券を使うと，親教育のプログラム参加費を５ユーロの割引を受けることができる。これは各州がまかなっており，州として親教育を推進していることを示している[9]。このように多様な方法を用いて，親教育を周知し，親が気軽に参加できるような取り組みが行われている。

Ⅱ．シュタイアーマルク州の事例

～グライスドルフ親子センターでの実践例～

オーストリアの９つの州の一つである，シュタイアーマルク州のグライスドルフ市には，シュターアーマルクで２番目に大きい親子センターがある。グライスドルフ親子センターは，1995年から親子関係の支援を行っている。毎週約500人の親や子ども達が訪れ，毎週25の定期的なグループと，１年間に90の多様な催し物が行われている。０歳から18歳までの子どもを持つ親や，妊娠中の母親とその父親，また，祖父母も対象である[10]。

グライスドルフ親子センターで行われている親や子どもを対象としたプログラムには次のようなものがある。まず,妊娠中の親や出産をテーマにしたものには，妊娠中の体を安静に保ち，出産に備えるため，体操のコース，ヨガのコースがある。参加者はそれぞれ，2010年10月から2011年９月までの１年間で117人，35人と多かった。また，出産準備コースという，助産師と一緒に妊娠中の体の変化や出産について学んだり親同士で経験を交流したり，実際に体操や練習をしたりするものがある。他には，第２子を出産する人を対象に，第１子との接し方や，第１子の出産と第２子の出産の違い等について学ぶコースがある。これらのコースは，曜日によって開始時間はことなるが，いずれも平日は18時や19時30分からなど夜間に行われたり，土曜に行われたりするため，仕事をしている人でも参加しやすく，また母親と父親とが一緒に参加しやすいようになっている。

子どもと親を対象にしたものには次のようなものがある。１歳未満の子どもを対象にしたものには,赤ちゃん出会いグループがあり，母親や父親，また祖父母が質問をしたり，他の親と知り合い，交流をしたりすることができることを目的にされている。また，特別なテーマとして，母乳についての質問や，出産時に帝王切開をした母親とその父親対象の悩みなどを相談できるグループもある。さらに，赤ちゃんマッサージや，抱っこやおんぶの仕方，出産後の背中や足，おなかの体操，赤ちゃんスイミング，ベイビーサインの学習な

表１グライスドルフ親子センターにおける親教育のプログラムのテーマ

- ねむれ、ねむれ（子守歌）
- いやだ！
- 思春期それともサボテンを抱きしめる?
- おまけの課題
- 子ども達にいいます…
- 典型的なリザ、典型的なレオ
- 魔法のおむつ外し
- ごまかしは無し
- 女性のバーンアウト
- 過大な要求ではなく、援助
- 子どもを強くする！
- 強い感情との上手なつきあい
- 親離れ、泣き虫、人見知り
- 祖父母が孫を世話する
- 子どもの発達における大事な時期
- ぜんぶ手に負えなくなったとき
- 子どもは（親に）従わないといけない？
- 育児休暇と子育て金ー育児休暇のモデル
- 頭の体操と学生のえさ
- ひどく腹をたててしまうとき
- 新生児との生活
- 義母とのつきあい
- 新鮮で色とりどりの食事ー健康な食事で元気に
- テレビ、テレビゲーム、携帯など
- 魔女、カラス、くまなど
- 兄弟ー特別な愛情

どのコースがある。

１歳～２歳半未満の子どもを対象にしたものは，１週間に３つのグループがある。親と子どもが一緒に参加し，遊んだり歌ったり工作をしたりすることを通して，他の親や子どもと知り合ったり，多様な経験をする。また，２歳半以上の子どもを対象としたものには，プレイグループ，英語コース，イースターやクリスマスの行事にあわせた活動などがあり，子どもが親と一緒に参加したり，また親無しで子ども同士が交流したりする，多様な活動が行われている。

これらの活動の一部分として，親教育のプログラムが行われている。グライスドルフ親子センターでは，１年間で1000人を超える親，祖父母等が親教育のプログラムに参加している。親教育プログラムのテーマは，子どもの寝かせ方，自我の芽生えや反抗期について，人見知りについて，子どもの自立，従順，子どもの感情など子どもの発達について，また男児と女児の違いや，育児休暇や育児給付金について，義母とのつきあいについて，祖父母による子育てについてなど，多様である[11]。

また，グライスドルフ親子センターでは，父親を対象とした親教育プログラムが2008年から実施されている。2011年は，父親対象のプログラム実施がグライスドルフ親子センターの重点テーマとして取り組まれ，シュタイアーマルク州の中でも先駆的なモデルとなっている。

主なプログラムは，「パパと子どもの朝食」と「パパと子どもの午後遊び」である。「パパと子どもの朝食」は，毎月２回，土曜日の午前中９時から10時30分に行われている。父親が子どもと一緒に親子センターに集まり，パン，ジャム，ジュースなどの朝食を摂る。父親は，ここで他の父親と交流し，ともに経験などを交換しあうことができる。「パパと子どもの午後遊び」は，１年に４回，たこつくり，雪だるまつくり，子ども部屋のカオス(子ども部屋やフルーツの庭園などで遊ぶ)などのテーマで行われている。３歳から６歳までの子どもをもつ父親が参加している。これらの定期的なプログラム以外に，よい父親としてどのような役割があるのか，暴力や暴言をふるわずに子どもに教えたり，しつけたりするにはどうしたらよいのかなど，父親の子育てをテーマにした講演会も行われた。今日では，できるだけ子どもとたくさんの時間を過ごしたい，父親の役割を果たしたい，という父親も増えていることもあり，このような父親を対象としたプログラムの充実が求められている[12]。

Ⅲ．シュタイアーマルク州における親教育の実態

シュタイアーマルク州の2010/2011年度の親教育評価報告書[13]より，実際にどのような人が親教育に参加したか，その実態についてみていく。

1．性別

参加者のうちアンケートに回答した848人のなかで，88パーセントが女性，８パーセントが男性，４パーセントが不明であった。

2．家族形態

参加者のうちおよそ半分は，結婚している人であった。結婚していないがパートナーがいる参加者も含めると，参加者の75パーセントは父親と母親とで育てている人であった。

表２　参加者の家族形態

結婚している	56%
結婚していないがパートナーがいる	19%
結婚しておらずパートナーもいない	12%
離婚した	7%
パートナーが亡くなった	1%
不明	5%

3. 最終学歴

参加者のうち最も多いのは，職業訓練校[14] を卒業した人44％で，次に多いのは，ギムナジウム（一般教養学校）[15] を卒業した人24％であった。大学を卒業した人は22％，９年間の義務教育を修了した人が５％であった。

4. 年齢

31-40歳の参加者が46パーセントと約半分を占めている。その次に多いのは，21-30歳の参加者で24パーセントである。

表３　参加者の年齢

20 歳以下	2％
21-30 歳	24％
31-40 歳	46％
41-50 歳	14％
50 歳以上	7％
不明	7％

おわりに

オーストリアの親教育は，親が自分の子どもや親自身にとって必要なものを自分で選択し，考えながら，子育てを親が自分自身でよりよくしていく過程を支援していくことが目的とされていることがわかった。そのために，親教育は，親同士のグループでの学びを通して，それぞれの経験について交換し交流をはかり，自分の経験を省みる機会を提供し，親に多様な選択肢を提供する役割を持っている。また，母親だけでなく父親の参加を促すためにも積極的な試みが行われていることもわかった。

子育ては，それぞれの家庭によって多種多様であり，何が正しく何が正しくないのかを決めることはとても難しいことである。それゆえに，親の発達を促すためには，決まった子育ての方法を伝授することではなく，親自身が自分自身の子育てを見いだし，それぞれの親としての経験を深めていく過程を支援していくことが重要である。本論文では，親教育に関する資料をもとに考察を行った。今後は，親教育が実際にどのように機能しているのかを明らかにするため，親教育が提供されている機関で実際にどのような支援を行っているのかを調査したい。

【注】

１）以上，中野由美子「親子の関係性の変貌と子育て支援の方向性」『家庭教育研究所紀要』第24巻，2001年，28-39頁，小川博久「保育基本問題検討委員会最終報告　今日の乳幼児の危機と保育の課題」『保育学研究』第40巻第1号，2002年，160-165頁，柳瀬洋美「こころを育む親支援―現代の子育て不安とこころの自立―」『家庭教育研究所紀要』第25巻，2002年，19-23頁参照。

２）以上，オーストリア経済・家庭・青年省，親教育の定義 (Institutionelle Elternbildung Definition) 参照。(http://www.eltern-bildung.at/ueber_uns/definition_elternbildung/definition_elternbildung_detail/) 2012年９月18日閲覧。

３）同上。

４）同上。

５）同上。

６）Bundesministerium für Wirtschaft, Familie und Jugend, Richtlinien zur Förderung der Elternbildung, S. 2.

７）Das Land Steriermark Bildung, Familie, Frauen und Jugend, Qualitätskriterien der Elternbildung als Basis für das Zwei und Mehr (Netzwerk Elternbildung), S. 3.

８）Ebd., S. 3.

９）Ebd., S. 7.

10）Eltern-Kind-Zentrum Gleisdorf, Tätigkeitsbericht 2011, S. 8.

11）Ebd., S. 42-43.

12）Ebd, S. 6-7, 24, 36-38.

13）Mag.a Susi Bali, Evaluierung ZWEI und MEHR – Elternbildung/Elternbegleitung/Vernetzung 2010/2011, ZWEI und MEHR, 2011, S. 21-35.

14）９年間の義務教育後に通う，日本でいう高校にあたる学校で，職業について専門的に学ぶ。

15）９年間の義務教育後に通う，日本でいう高校にあたる学校で，大学入学資格の取得を目指して学ぶ。

【参考・引用文献】

Bundesministerium für Wirtschaft, Familie und Jugend, Richtlinien zur Förderung der Elternbildung.

Das Land Steriermark Bildung, Familie, Frauen und Jugend, Qualitätskriterien der Elternbildung als Basis für das Zwei und Mehr (Netzwerk Elternbildung)

Eltern-Kind-Zentrum Gleisdorf, Tätigkeitsbericht 2011.

Mag.a Susi Bali, Evaluierung ZWEI und MEHR –

Elternbildung/Elternbegleitung/Vernetzung 2010/2011, ZWEI und MEHR, 2011.
中野由美子「親子の関係性の変貌と子育て支援の方向性」『家庭教育研究所紀要』第24巻，2001年，28-39頁。
小川博久「保育基本問題検討委員会最終報告　今日の乳幼児の危機と保育の課題」『保育学研究』第40巻第１号，2002年，160-165頁。
柳瀬洋美「こころを育む親支援－現代の子育て不安とこころの自立－」『家庭教育研究所紀要』第25巻，2002年，19-23頁。